

阿嘉島および慶留間島で採集した水生甲虫類

上手雄貴¹⁾・青柳 克²⁾・上手奈美³⁾

¹⁾ 〒 467-8615 名古屋市瑞穂区萩山町 1-11 名古屋市衛生研究所

²⁾ 〒 901-2114 浦添市安波茶 2-7-5-402

³⁾ 〒 500-8381 岐阜市市橋 4-6-24

Records on Aquatic Coleoptera of Aka-jima and Geruma-jima, Okinawa Prefecture, Japan

Yuuki KAMITE, Masaru AOYAGI, and Nami KAMITE

はじめに

阿嘉島および慶留間島は慶良間諸島に属し、沖縄島から南西約 40 km に位置する島である。阿嘉島の面積は 3.96 km² と慶良間諸島で渡嘉敷島、座間味島に次いで大きな島であるが、慶留間島の面積は 1.22 km² と小さな島であり、両島ともにそのほとんどを山林地域が占めている。

阿嘉島の水生甲虫類の記録は、東・金城 (1978)、佐々木ほか (2002)、青柳 (2015) があり、青柳 (2015) により 4 科 21 種にまとめられている。慶留間島については、東・金城 (1978) においてヒメゲンゴロウが記録されている。筆者らは 2019 年 3 月に阿嘉島および慶留間島において水生甲虫類の調査を行い、阿嘉島で得られた種の中にはいくつかの初記録種が含まれていた。また、慶留間島で得られた種はすべて初記録であった。本報告では、両島において採集されたもののうち、ゲンゴロウ科、ミズスマシ科、ダルマガムシ科、ガムシ科、ヒラタドロムシ科、ドロムシ科およびヒメドロムシ科について記録する。

調査地点

調査地点は以下の通りで、採集データでは地名を略記した。

阿嘉西部 1: 座間味村阿嘉島阿嘉 西部の手前の沢

阿嘉西部 2: 座間味村阿嘉島阿嘉 西部の奥の沢

阿嘉集落: 座間味村阿嘉島阿嘉 阿嘉集落奥の湿地

阿嘉南東部: 座間味村阿嘉島阿嘉 南東部の湿地

慶留間 1: 座間味村慶留間島慶留間 避難道入口のコンクリートの溜まり

慶留間 2: 座間味村慶留間島慶留間 避難道入口の沢

採集記録

採集記録を分類群ごとに記述する。データ中の L

は幼虫、P は蛹の個体数を示す。標本は採集者が保管している (上手雄貴・奈美採集の場合には上手雄貴保管)。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

チャマダラチビゲンゴロウ *Hydroglyphus inconstans* (Régimbart, 1892)

3 exs., 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている。

サビモンマルチビゲンゴロウ *Leiodytes nicobaricus* (Redtenbacher, 1868)

4 exs., 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

阿嘉島初記録である。

サザナミツブゲンゴロウ *Laccophilus flexuosus* Aube, 1838

1 ♂, 阿嘉集落, 16. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。阿嘉島初記録である。

タイワンセスジゲンゴロウ *Copelatus tenebrosus* Régimbart, 1880

1 ♂, 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている。

リュウキュウセスジゲンゴロウ *Copelatus oblitus* Sharp, 1882

1 ♂, 阿嘉集落, 16. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集; 1 ♂ 1 ♀, 同, 17. III. 2019, 上手雄貴採集。

4 ♂ 6 ♀, 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

1 ♀, 慶留間 1, 15. III. 2019, 上手雄貴採集。

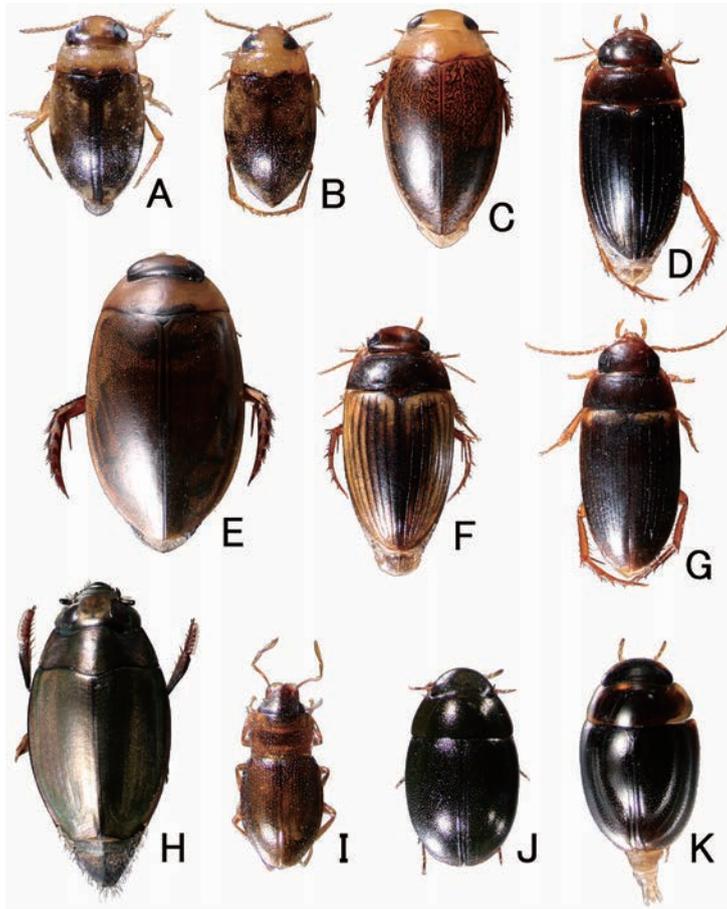


図1. 阿嘉島・慶留間島の水生甲虫類 (写真はすべて阿嘉島産, 上手雄貴撮影). A, チャマダラチビゲンゴロウ; B, サビモンマルチビゲンゴロウ; C, サザナミツビゲンゴロウ; D, タイワンセスジゲンゴロウ; E, ウスイロシマゲンゴロウ; F, リュウキュウセスジゲンゴロウ; G, チンメルマンセスジゲンゴロウ; H, ツマキレオオミズマシ; I, ダルマガムシ属の一種; J, チビマルガムシ; K, ヒメマルガムシ属の一種.

阿嘉島初記録である.

チンメルマンセスジゲンゴロウ *Copelatus zimmermanni* Gschwendtner, 1934

1♂1♀, 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集.

阿嘉島初記録である. 湿地の浅い場所において, リュウキュウセスジゲンゴロウなどとともに得られた.

ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhantoides* Sharp, 1882

1♀, 阿嘉集落, 17. III. 2019, 上手雄貴採集.

1♂2♀, 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集.

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている.

ミズスマシ科 Gyrinidae

ツマキレオオミズスマシ *Dineutus australis* (Fabricius, 1775)

7 exs., 阿嘉集落, 16. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集.

阿嘉島初記録である. 採集個体以外にも多くの個体を確認している.

ダルマガムシ科 Hydraenidae

ダルマガムシ属の一種 *Hydraena* sp.

3 exs., 阿嘉西部 1, 15. III. 2019, 上手雄貴採集; 2 exs., 同, 16. III. 2019, 上手雄貴採集.

3 exs., 阿嘉西部 2, 15. III. 2019, 上手雄貴採集.

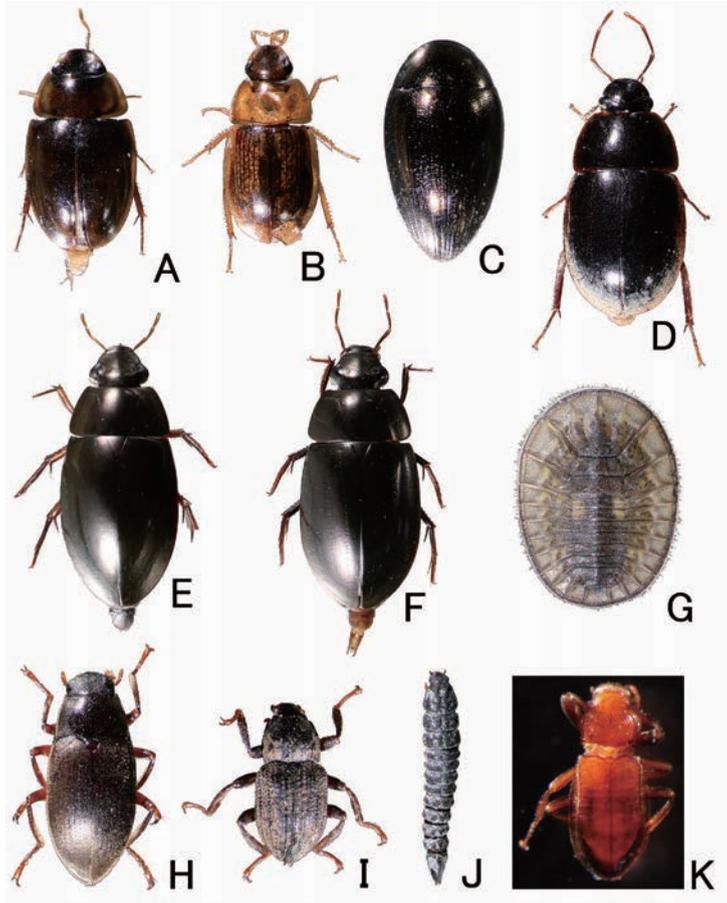


図2. 阿嘉島・慶留間島の水生甲虫類（写真のA-Jは上手雄貴撮影，Kは青柳撮影，Kのみ慶留間島産）. A, コクロヒラタガムシ；B, ルイスヒラタガムシ；C, マメガムシ；D, クロヒラタガムシ；E, ヒメガムシ；F, ミナミヒメガムシ；G, オオシマルヒラタドロマシ（幼虫）；H, リュウキュウムナピロツヤドロマシ；I, マルナガアシドロマシ；J, マルナガアシドロマシ（幼虫）；K, ウエノツヤドロマシ.

4 exs., 慶留間 2, 16. III. 2019, 青柳克採集.

阿嘉島初記録である。いずれも流水環境から得られているが、琉球列島の流水性ダルマガムシ属は多くの種に分化しており、互によく似ているため、ここではダルマガムシ属の一種として記録する。

ガムシ科 Hydrophilidae

チビマルガムシ *Paracymus orientalis* d'Orchymont, 1925

3 exs., 阿嘉集落, 16. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集.

1 ex., 慶留間 1, 15. III. 2019, 上手雄貴採集.

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている。

ヒメマルガムシ属の一種 *Anacaena* sp.

2 exs., 阿嘉西部 1, 15. III. 2019, 上手雄貴採集；7 exs., 同, 16. III. 2019, 上手雄貴・青柳克採集.

7 exs., 阿嘉西部 2, 15. III. 2019, 上手雄貴採集.

1 ex., 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集.

1 ex., 慶留間 2, 16. III. 2019, 青柳克採集.

阿嘉島初記録である。従来、琉球列島からヒメマルガムシ属の記録は無かったが、上手・青柳 (2018) により座間味島からヒメマルガムシ属の一種として記録された。ここでも同じくヒメマルガムシ属の一種として記録する。

コクロヒラタガムシ *Chasmogenus abnormalis* (Sharp, 1890)

10 exs., 阿嘉集落, 16. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集.



図3. 生息環境。A, 座間味村阿嘉島阿嘉西部の手前の沢; B, 座間味村阿嘉島阿嘉阿嘉集落奥の湿地; C, 座間味村阿嘉島阿嘉南東部の湿地; D, 座間味村慶留間島慶留間避難道入口のコンクリートの溜まり。

4 exs., 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

3 exs., 慶留間 1, 15. III. 2019, 上手雄貴採集。

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている。

ルイスヒラタガムシ *Helochaers pallens* (Macleay, 1833)

1 ex., 阿嘉集落, 16. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている。

クロヒラタガムシ *Helochaers ohkurai* M. Satô, 1976

1 ex., 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている。

ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius, 1792)

1 ex., 阿嘉集落, 16. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている。

ミナミヒメガムシ *Sternolophus inconspicuus* (Nietner, 1857)

3 exs., 阿嘉集落, 16. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

3 exs., 阿嘉南東部, 17. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

1 ex., 慶留間 1, 15. III. 2019, 上手雄貴採集。

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている。

マメガムシ *Regimbartia attenuata* (Fabricius, 1801)

2 exs., 阿嘉集落, 16. III. 2019, 上手雄貴・奈美採集。

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録されている。

ヒラタドロムシ科 Psephenidae

オオシママルヒラタドロムシ *Eubrianax amamiensis* M. Satô, 1965

19L+2P, 阿嘉西部 1, 16. III. 2019, 上手雄貴・青柳克採集。

9L, 慶留間 2, 16. III. 2019, 青柳克採集。

阿嘉島初記録である。幼虫および蛹が得られた。

ドロムシ科 Dryopidae

リュウキュウムナビロツヤドロムシ *Elmomorphus amamiensis* Nomura, 1959

1 ex., 阿嘉西部 1, 15. III. 2019, 上手雄貴採集。

阿嘉島からは青柳 (2015) によりすでに記録され

ている。流水中の植物から得られた。

ヒメドロムシ科 Elmidae

マルナガアシドロムシ *Grouvellinus subopacus* Nomura, 1962

8 exs. +5L, 阿嘉西部 1, 16. III. 2019, 上手雄貴・青柳克採集。

1L, 慶留間 2, 16. III. 2019, 上手雄貴採集。

阿嘉島初記録である。阿嘉島においては、成虫および幼虫が得られたが、慶留間島では幼虫のみ得られた。両島ともに岩盤の水が滴る場所において得られた。

ウエノツヤドロムシ *Urumaelmis uenoi* (Nomura, 1961)

1 ex., 慶留間 2, 16. III. 2019, 青柳克採集。

慶留間島において1頭のみ確認できたが、阿嘉島では確認できなかった。岩盤の水が滴る場所において得られた。

阿嘉島・慶留間島の水生昆虫相

今回の調査により阿嘉島から7科20種、慶留間島から5科9種を確認した。阿嘉島においては、その半数近くの9種が初記録であり、慶留間島においては、9種すべてが初記録であった。生息環境ごとに分けると、阿嘉島では流水性種が5種で、止水性種が15種であった。過去の記録まで含めると8科30種を確認したことになり、流水性種が5種で、止水性種が25種となる(表1)。今回の調査において多くの初記録種を確認したものの、止水性種においては再確認できなかった種も多く、まだ島内の調査が十分できていない可能性が高い。今後も様々な環境や時期における調査が必要だと考えられる。慶留間島では流水性種が5種で、止水性種が4種であった。過去に記録があり今回の調査では得られなかったヒメゲンゴロウを含めると5科10種を確認したことになり、流水性種、止水性種ともに5種となる(表2)。慶留間島においては、今回の調査では良い止水環境を確認することができなかった。小さな島なので、小規模であっ

表1. 阿嘉島水生甲虫類.

科名	種名	確認種
コツブゲンゴロウ科	チビコツブゲンゴロウ	<i>Neohydrocoptus subvittulus</i>
ゲンゴロウ科	コマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus acuminatus</i>
	マルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus subtilis</i>
	チビマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus pumilus</i>
	チャイロチビゲンゴロウ	<i>Allodessus megacephalus</i>
	チャマダラチビゲンゴロウ	<i>Hydroglyphus inconstans</i> ○
	サビモンマルチビゲンゴロウ	<i>Leiodytes nicobaricus</i> ◎
	サザナミツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus flexuosus</i> ◎
	タイワシセシゲンゴロウ	<i>Copelatus tenebrosus</i> ○
	リュウキュウセシゲンゴロウ	<i>Copelatus oblitus</i> ◎
	チンメルマンセシゲンゴロウ	<i>Copelatus zimmermanni</i> ◎
	ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>
	ウスイロシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus rhantoides</i> ○
ミズスマシ科	ツマキレオオミズスマシ	<i>Dineutus australis</i> ◎
ダルマガムシ科	ダルマガムシ属の一種※	<i>Hydraena</i> sp. ◎
ガムシ科	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i>
	チビマルガムシ	<i>Paracymus orientalis</i> ○
	ヒメマルガムシ属の一種※	<i>Anacaena</i> sp. ◎
	コクロヒラタガムシ	<i>Chasmogenus abnormalis</i> ○
	ルイスヒラタガムシ	<i>Helochares pallens</i> ○
	アカヒラタガムシ	<i>Helochares anchoralis</i>
	クロヒラタガムシ	<i>Helochares ohkurai</i> ○
	ヒラタガムシ属の一種	<i>Enochrus</i> sp.
	コガタガムシ	<i>Hydrophilus bilineatus cashimirensis</i>
	ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i> ○
	ミナミヒメガムシ	<i>Sternolophus inconspicuus</i> ○
	マメガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i>
ヒラタドロムシ科	オオシママルヒラタドロムシ※	<i>Eubrianax amamiensis</i> ◎
ドロムシ科	リュウキュウムナピロツヤドロムシ※	<i>Elmomorphus amamiensis</i> ○
ヒメドロムシ科	マルナガアシドロムシ※	<i>Grouvellinus subopacus</i> ◎
8科	30種	

○は今回の調査で生息が確認できた種、◎は今回の調査で初確認の種
 和名の後の※は流水性種を示す
 青柳 (2015) で記録されていたウスグロヒラタガムシはヒラタガムシ属の一種とした
 青柳 (2015) で記録されていたヤギマルケシゲンゴロウは青柳 (2018) によりチビマルケシゲンゴロウに訂正された

表2. 慶留間島の水生甲虫チェックリスト.

科名	種名
ゲンゴロウ科	リュウキュウセズゲンゴロウ <i>Copelatus oblitus</i>
	ヒメゲンゴロウ <i>Rhantus suturalis</i>
ダルマガムシ科	ダルマガムシ属の一種※ <i>Hydraena sp.</i>
ガムシ科	ヒメマルガムシ属の一種※ <i>Anacaena sp.</i>
	チビマルガムシ <i>Paracymus orientalis</i>
	コクロヒラタガムシ <i>Chasmogenus abnormalis</i>
	ミナミヒメガムシ <i>Sternolophus inconspicuus</i>
ヒラタドロムシ科	オオシママルヒラタドロムシ※ <i>Eubrianax amamiensis</i>
ヒメドロムシ科	マルナガアシドロムシ※ <i>Grouvellinus subopacus</i>
	ウエノツヤドロムシ※ <i>Urumaelmis uenoi</i>
5科	10種

和名の後の※は流水性種を示す
ヒメゲンゴロウは今回の調査では得られていない

でも良好な止水環境が存在するの否かで記録される種数がかかなり変わってくるものと考えられる.

謝辞

本稿をまとめるにあたり、阿嘉島および慶留間島での水辺環境について情報を提供いただいた阿嘉島在住の森内安行・憲子夫妻に厚く御礼申し上げます.

引用文献

青柳 克, 2015. 慶良間諸島阿嘉島の水生昆虫(トンボ・カメムシ・コウチュウ). 琉球の昆虫, (39): 35-40.
 青柳 克, 2018. [訂正2] 本誌第39号掲載「慶良間諸島阿嘉島の水生昆虫」の誤同定. 琉球の昆虫, (42): 125.
 東 清二・金城政勝, 1978. 阿嘉島と慶留間島の昆虫相, “沖縄県天然記念物調査シリーズ第12集 ケラマジカ実態調査報告”, 沖縄県教育委員会(編), 同委員会, 177-209.
 上手雄貴・青柳 克, 2018. 座間味島で採集した水生甲虫類. さやばねニューシリーズ, (32): 26-31.
 佐々木健志・木村正明・河村 太, 2002. COLEOPTERA コウチュウ目, “琉球列島産昆虫目録 増補改訂版”, 屋富祖昌子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村 太(編), 沖縄生物学会, 157-284.

(2019年6月8日受領, 2019年8月20日受理)

【短報】奄美大島および沖縄島におけるタイワンマルガタテントウダマシの記録

タイワンマルガタテントウダマシ *Bystodes taiwanensis* Sasaji, 1970 は, 台湾で採集された4個体を基に記載された種である(Sasaji, 1970). 日本からは生川(2012)により, 沖縄県の阿嘉島において



図1. タイワンマルガタテントウダマシ (スケールバー: 1.0 mm).

FITで得られた2個体がはじめて記録されたが, その後の記録はない. 筆者は今までに記録のない鹿児島県の奄美大島および沖縄県の沖縄島において本種を採集しているため,

以下に報告する. なお, すべて筆者採集・保管である.

1 ex., 鹿児島県大島郡(奄美大島)瀬戸内町阿木名油井岳, 24. VIII. 2018; 2 exs. (図1), 沖縄県(沖縄島)国頭郡国頭村辺野喜西銘岳麓, 16. II. 2019.

いずれの個体も山地の照葉樹林内において, 大径木樹洞のスプレーイングによって採集された.

末筆ながら, 同定を確認して下さった生川展行氏(鈴鹿市)ならびに, 標本写真の撮影にご協力下さった戸田尚希氏(名古屋市)に深謝する.

引用文献

生川展行, 2012. 日本初記録のテントウムシダマシ2種. さやばねニューシリーズ, (5): 17.
 Sasaji, H., 1970. Notes on the Formosan Endomychidae, with descriptions of a new genus and several new species (Coleoptera). Etizenia, Fukui, (43): 1-18, pls. I-IV.

(中野文尊 501-3154 岐阜市岩田東3-200)